ASEAN グローバルプログラムに参加して

小　川　永　遠
Towa OGAWA
情報メディア学科　2 年

1. はじめに

2019 年 8 月 27 日から 9 月 5 日の 10 日間，ベトナムとシンガポールで行う ASEAN グローバルプログラムに参加した．表 1 に具体的な日程をまとめる．

表 1　研修日程

8 月 27 日	関空発・ハノイ着
8 月 28 日	栄光堂講演・工場見学 NTQ 訪問
8 月 29. 30 日	ハノイ工業大学 PBL
8 月 31 日	自由行動
9 月 1 日	ハノイ発・シンガポール着 Tong 氏講演
9 月 2 日	南洋工科大学訪問 （講義，研究室見学）
9 月 3 日	Google 社訪問・加藤さん講演 若手ビジネスパーソン交流会
9 月 4. 5 日	自由行動 シンガポール発・関空着

2. 参加目的

私が ASEAN グローバルプログラムに参加した目的は，2 つある．

1 つ目は英語への意欲向上である．私は英語が苦手で，極力英語を使う場面を避けて生きてきた．日常では，自ら英語を使おうと思わず，使う機会はほとんどない．そのような自分を変えるために，英語を使わないといけない環境に強制的に自分を置くことを決意した．また，海外の学生と交流することで自分の英語力との差を知ることができ，危機感をもってこれからの英語の学習につながると考えた．

2 つ目は，日本で受けることのできない異文化からの刺激を受けることである．私は海外へ行ったことがないため，日本以外の国々の実態を肉眼で見たことがない．日本は島国のため，他国との文化にかなりの差があると想像していた．他国を知ることは自分への強い刺激になり，さらに視野を広げることができると信じている．多くの経験を通じて，視野を広げることは，自分の人生設計で非常に大切であると考えた．

3. 研修内容

3.1　Google 社訪問

今回のプログラムでは多くの企業，特に所属学科に関係の深い IT 系の会社を訪問できた．特に印象的だったのは，シンガポールの Google 社である．そこでは現地の Google 社で働く日本人女性の方の話を聞けた．その講演で話されていたことによると，世界の検索エンジン 1 位と 2 位が Google 社であり，広告収入のみで何十億円になるとのことであった．Google 社には毎日何万人もの人が就職を応募しているとも聞いた．そのような中から選ばれる人はエリートだと感じた．この日本人女性の方は，楽天から Google 社に転職したが，数年後にはまた転職するかもしれない，とのことであった．転職して更なるキャリアアップを考える人は少なくないと考える．Google 社では新しい試みを多くしており，失敗も多くあると聞いた．世界で有名であること，知名度だけでは何もかもが成功するということはな

図 1　Google 社での集合写真

いのだろうと思った.

3.2　ベトナム人学生との PBL

今回のプログラムの中では，ベトナム人学生とのグループワーク，PBL の活動がメインであった．日本人学生 5 人に対し，ベトナム人学生 2 人という班構成であった．ベトナム人学生は，とにかく英語が上手であり，積極的であった．英語がなかなか聞き取れない私たちに対してゆっくりと話してくれたり，ジェスチャーを多く交えたりし，伝える努力をしてくれた．ベトナム人学生にとっても英語は外国語であり，私たちと同じ条件で勉強しているはずであるが，英語力の差は歴然で，英語力のなさを痛感させられた.

アンケート作りでは，まず私たちの仮説とそれに対する意見についてベトナム人学生に伝え，議論し，その仮説について前もって作っていたアンケートに追加の質問を加えた．自分の意見を伝えることの難しさを痛感した．ここでは，ベトナム人学生の積極性にも驚いた．アンケートを取る際に，講義を行っている教室に入り，何十人もの人の前でアンケートの内容を話し，協力してもらっていた．果たして，私たちは日本の大学で同じ事ができるのだろうか．授業に割り込むのは別としても，積極的に多くの人の前で自分の伝えたいことを伝えられるだろうか，と思った．今回のグループワークにてベトナム人学生の積極性を見習い，これからの日本での活動の際でもその時のことを思い出し，自分から多くの意見を出そうと決意した.

図 2　同じグループのベトナム人学生と共に

3.3　若手ビジネスパーソンによる交流会・講演会

若手ビジネスパーソンとの交流会では，4 名の日本人の方に話を聞けた．ここでは普段聞くことのできないような話を聞くことができた．自分を楽な場所に置くのではなく，厳しい状況に置くことが成長につながると学んだ．また，現在行っていること，勉強などは後々思わぬところで必要になることがあり，人生において学ぶのに無駄なことはないとも教えてもらった．加藤氏の講演からも刺激を受けた．1 番学んだことは，仲間の大切さである．共に高めあう仲間がいることは自分の成長に欠かせないと感じた．加藤氏は学生時代からリョーマという組織で活動し，仲間でありライバルである関係を築いておられた．切磋琢磨することにより，皆が会社のトップの人間となっているとのことで，自分も大学で，お互いに成長できるような仲間を作ろうと決意した.

4.　おわりに

今回のプログラムでは多くの刺激を受けた．英語に対しての学修意欲の向上ができた．英語がさらに話せることによって自分の視野が広くなるだろうと考えた．また，多くの人の人生について話を聞いていろいろな生き方があり，自分のこれからの人生設計に役立つ経験だったと考える.

このプログラムを企画してくださった方々に感謝します.